

令和5年度 外国語科 授業改善推進プラン

大田区立北糀谷小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・各単元で学んだ既習表現を、small talk や warm-up で何度も慣れ親しんだことで、児童同士で伝え合ったり、教師の話す内容を聞き取れるようになってきた。
- ・「聞くこと・話すこと」を中心とした授業づくりをすすめたことで、児童が英語を話すことに抵抗感をもつ割合は減り、積極的に英語を使おうとする姿勢が育ってきた。

(2) 課題

- ・各単元で学んだ表現を十分に聞き、話すことには慣れてきているので、今後は自分が話している単語や英文を読めるようにしていくことが必要である。
- ・伝えたいことが出てきたときに、既習の表現を使ってどのように言い換えたらいのかを考える時間を授業の中で必要に応じて確保し、児童の思考力や表現力を高めていく指導が必要である。
- ・文字を書く指導が他の領域に比べると少し足りていない。単元あるいは1単位時間のどの部分で書く指導を行うのかを明確にし、「書くこと」の時間を確保していく。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（目標値との比較）

	令和5年度結果	令和4年度結果	令和3年度結果
第6学年	±0	+1.3	+2.3

(2) 分析（観点別）

① 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・目標値は超えており、基本的な技能や知識は身に付いている。	・目標値を下回っているが、会話や物語の内容を判断する問題は目標値を上回っており、課題は「書くこと」にある。	・概ねどの児童もよく取り組んでおり、目標値を上回ることができている。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・発音が似ている言葉を意識的に教師が使い、児童に small talk の内容を理解させたり、教師が使っていた言葉を繰り返し発音させたりするようにする。 ・「やりとり」を続けるために、相槌を打ったり、共感したりしたことを伝える語句を理解させ、small talk で積極的に使うようにさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションを行う場面や目的をはっきりさせ、既習表現の言葉を使ったり、新しく学習する言葉の意味を推測したりできる場を設定する。 ・児童の思いや考えを丁寧に聞き取り、既習の表現を使って相手に伝えられないかどうか考える場を設定する。 ・「読むこと」から「書くこと」への指導を丁寧に行い、写したりなぞったりする活動を多く取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・外国語の背景にある文化に対する理解を深めたり、自国の文化と比較して特徴を探したりできるように、ALT の出身国の紹介や日本との比較を small talk や warm-up に取り入れる。 ・学習課題を自分で設定し、単元の目標に向けて取り組んでいる自分の学習の様子を振り返る活動を取り入れ、試行錯誤したり、学習を調整する機会を設ける。